

目的 母子大生の結婚に関する意識調査の多くはせいぜい相関分析に止まり、サブジェクトをグループ分けしてパターンを描いたものは少い。本報告は近畿一円の女子大生の結果を数量化二類、三類を用いて分析し、現代母子大生像を描いたものである。

方法 調査対象：近畿圏の女子大生、但し調査は男子大学生が友人等を通じて配布、回収してあり、完全な無作為抽出とはいえない。配布数1000、回収数786、内有効数735
配布時期 1982年10月下旬、回収時期11月中旬、質問はA結婚に関する意識、B結婚に関するサブジェクトの具体的な行動、Cサブジェクトの展性

Ⅱ類による分析 外的基準として、1. 大学の種類 2. 住居の種類 3. 男女間交際の有無 4. 学年 をとり、これに対して全項目による判別可能性を分析した。

結果	1	2	3	1軸	4	2軸
相関比	0.3493	0.1072	0.3488	0.4053	0.0971	
重相関係数	0.5891	0.3269	0.5904	0.6352	0.2982	

Ⅲ類による分析 母子大生全体の2軸による分類はかなり散らばって現在の女子大生の考え方が極めて多様化していることを示唆しているが、“Aグループ”理想の男性が現われるまで結婚せず自らの考えを中心にしてきめる。“Bグループ”理想の男性が現われなくてもある程度妥協し、結婚後親との同居を望み、結婚後仲がいいとは思わない——に分けられるようである。